

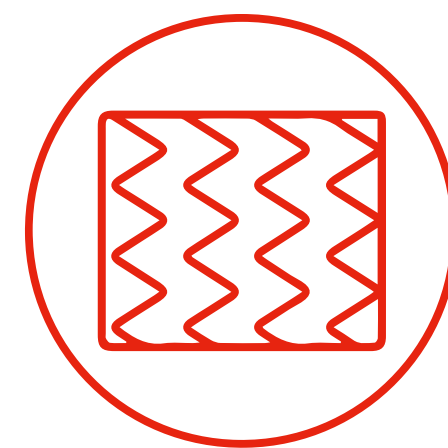
大動脈-腸骨動脈瘤と診断された患者さまへ

ない ち ょ う こ つ ど う み ゃ く お ん ぞ ん

内腸骨動脈を温存する

け っ か ん な い ち り ょ う

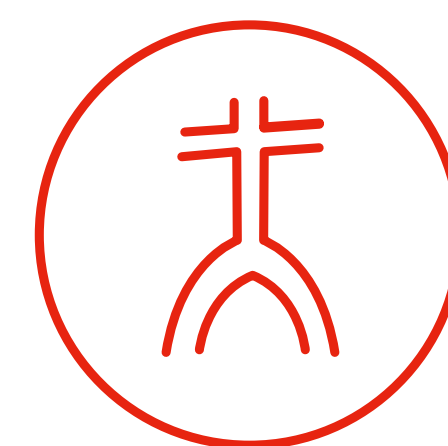
血管内治療をご存知ですか？



大動脈-腸骨動脈瘤の治療に対する術式は外科的手術以外にカテーテルを足の付け根の動脈から体内に挿入して「ステントグラフト」と呼ばれる機器を留置する「血管内治療」があります。



動脈瘤の血管内治療を行う際に、瘤の発生部位や血管の形状によっては、内腸骨動脈を塞栓しなければならない場合があります。内腸骨動脈塞栓により、歩行障害、勃起不全など「臀筋跛行」と呼ばれる合併症が一定の確率で起こる可能性があります。



当院では分岐型ステントグラフトを導入しています。分岐型ステントグラフトを用いた血管内治療により、内腸骨動脈を温存しながら、動脈瘤の治療と同時に臀筋跛行を避けることができる可能性があります。

当院では積極的に「内腸骨動脈の温存治療」を行っています。

詳しくは当院スタッフまでおたずねください。

※内腸骨動脈を温存できる治療は患者さんの血管の径、長さなど一定の条件がそろっている必要がありますので大動脈-腸骨動脈にできる病変すべてに適用できるわけではありません。

ゴア、GOREおよび記載のデザイン(ロゴ)は、W. L. Gore & Associates の商標です。© 2021 W. L. Gore & Associates, Inc. / 日本ゴア合同会社 21213501-JA JULY 2021